

1 審議会名	上田左岸地域協議会
2 日時	令和6年3月19日 午前10時00分から11時45分
3 会場	城南公民館 大ホール
4 出席者	赤堀委員、浅川委員、小林委員、小山委員、田中委員、田村委員、西入委員、羽田委員、樋口委員、松田委員、宮坂委員、宮崎委員、安江委員、柳澤委員、山岸委員、山田委員、和田委員
5 市側出席者	<b>【事務局】</b> 石井市民まちづくり推進部長、堀内市民参加・協働推進課長、間宮塩田地域自治センター長、藤沢川西地域自治センター長、滝沢城南地域振興政策幹、竹花地域内分権推進担当係長、滝澤地域内分権推進担当主査、城下地域内分権推進担当主査、清水地域内分権推進担当主任、芳池地域内分権推進担当主事 <b>【担当課】</b> 山田危機管理防災課長、吉澤廃棄物対策課課長補佐、金子子育て・子育て支援課長、渡辺子育て・子育て支援課課長補佐、星野中央公民館長、柳沢福祉課長、水野学園都市推進室長、宮崎農業政策課長、翠川商工課長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和6年3月28日

協 議 事 項 等

1 開会

2 会長あいさつ

3 協議事項

(1) 意見書に対する回答について

担当課長から資料を基に説明

以下、質疑応答

**【城南、塩田、川西地域の既存資源を有効活用した地域活性化策について】**

(委員)有害鳥獣対策が必須であることから、農家の所得確保を目的とした大豆の生産には向かない。と資料に記載があるが、その部分を説明してほしい。何の目的なら成り立つのか理解したい。

(農業政策課長)大豆は主に水田の兼作物として普及している。大豆そのものだけを販売すると、販売価格が低いために、経営が成り立たない。兼作の交付金と合わせて収益が出てくるので、平場の水田のある地区で大規模に大豆を生産いただくと、効率的で生産性の高いものになり、農家の収益にもつながる。

中山間地域で大豆など生産しようとする、どうしても有害鳥獣被害が多い。中山間地域の傾斜地の農地を守っていかなければ農村風景もなくなってしまう。大規模な効率的な栽培というよりは、自家用・直売所用の小規模農地も耕作いただけるような支援策を実施していきたい。

(2) 地域振興事業基金（持寄分）の取崩しについて

市民参加・協働推進課から資料を基に説明

4 閉会